

# Hello! FUJISEI

No. 134

病気やケガに対する不安として最も大きいのが「長期の入院で医療費がかさむのではないかな…」ということです。さらに、治療の長期化で収入が途絶えてしまうことも心配です。医療費の多くは公的医療保険でまかなえるとはいえ、差額ベッド代など個人の負担額は少なくありません。

実際に入院した場合、退院までにどれくらいの日数がかかっているのでしょうか？ 3年ごとに実施されている厚生労働省の「平成23年 患者調査」からその実態をみてみましょう。

平成23年9月中に退院した全国（宮城県、石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除く）の推計患者について、在院日数の平均である平均在院日数は32.8日で、施設の種類別にみると、「病院」が34.3日、「一般診療所」が17.5日となっています。

ちなみに、病院の34.3日という数字は、入院期間が長期に及ぶことが多い精神病床や介護療養病床を含めた全体の数字であり、一般病床だけに

退院患者の平均在院日数は32.8日

## 日数が短くなくても 費用の備えは必要！

限ると18.9日になり、こちらのほうが実感に近いのではないのでしょうか。

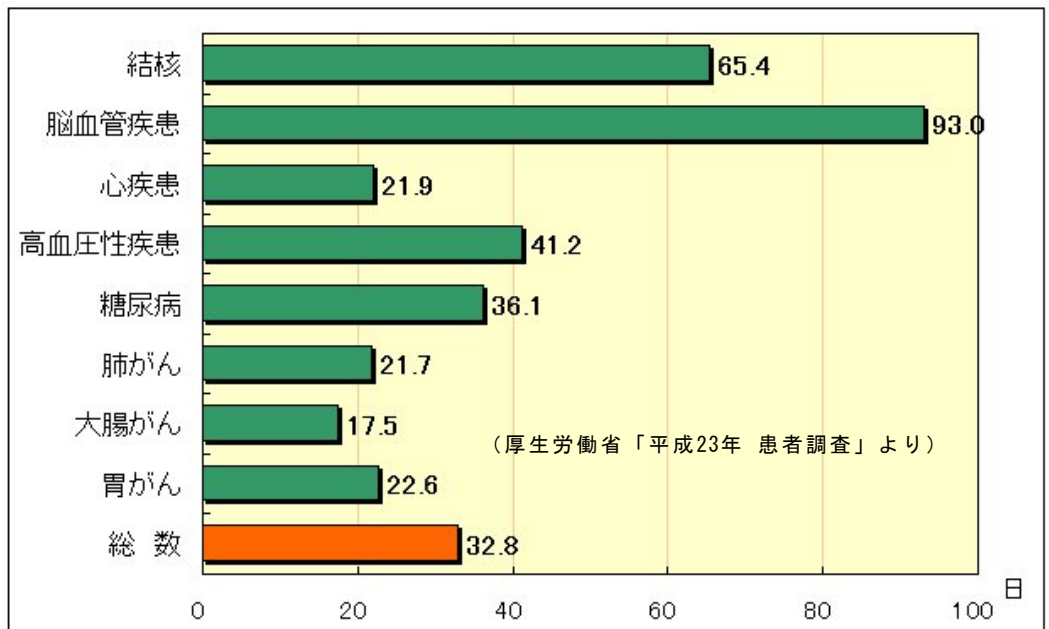
「病院」の年齢別では、15～34歳で14.0日であるのに対し、35～64歳では27.3日、さらに65歳以上になると44.8日と、年齢が上がるにしたがって長期化する結果となっています。ただし、年次推移では全体的に短くなる傾向にあります。

次に、主な傷病別部位別でみると胃がん22.6日、大腸がん17.5日、肺がん21.7日、高血圧性疾患41.2日、心疾患（心臓病）21.9日、脳血管疾患（脳卒中）93.0日、糖尿病36.1日

となっています。そのほかでは、アルツハイマー病236.3日、結核65.4日などが在院日数が長くなっています。

診療報酬制度の改正なども背景に全般的に入院日数は短くなる傾向にあります。病気の種類、手術の内容によっては長期にわたることもあります。また、治すために必要な高度な先進医療、通院による定期的な治療など入院日数とは関係なく高額な費用が必要となる場合もあります。万が一の際の準備は大丈夫でしょうか？

主な傷病別にみた退院患者平均在院日数



注：1）平成23年9月1日～30日に退院した者を対象としたもの。

2）宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏および福島県を除いた数値。